

地域の多世代交流施設を考える

ワークショップ 2回で、地域の多世代交流施設を考えるワークショップの2回めが終了しました。

古くなった公民館を移設するにあたり、児童館の機能も併設しようとする試みです。建築がご専門の大学教授とご一緒に行いました。

☆2回のワークショップで

1回目は、対象小学校区のビジョンを考えました。2回目では、そのビジョンのもとで、この施設が小学校区の中でどんな位置づけであるとよいか、そのためにはどんな機能があるとよいかについて話し合いました。

1回目は小学生の参加が1人でしたが、2回目は4人！そして中学生や高校生も参加してくれました。教授のゼミ生は1回目、2回目ともに参加して、グループで書記っぽいことも引き受けてくださり、たいへん強力で協力的な参加者となりました。

☆慣れる、進行が分かっているということも大切！

この2回、もちろん！ワールドカフェ形式で行いました。やはり、2回目は慣れたもので、スイスイとメンバーチェンジをしてくださり、共有の時間もわいわいと、そして安心して参加して下さっていたように見えました。



気軽に話し合いができ、同じ小学校区とはいえ、知らない人ともいろいろと交流できて、楽しそうでした。

共有は、「共感できる」「いいな」「おお、そんなやり方も」という項目にいいね！シールを貼ってもらうという方法で行いました。教授、傍聴していた地元の議員さん、行政職員も参加できました。場が温かくなるとよく言われますが、本当に室温が上がったようです。

☆市民参加で検討するということ

話し合いの中で、規模感など建物についての質問がでたときの教授のコメントが「箱ありきではなく、みなさんの話し合いから建物をデザインします」というものでした。そう言うくださる建築家は増えてきました。これが、市民参加で施設を考えることの基本的なスタンスですよね。

*久しぶりに施設を考えるワークショップのファシリテーターを務めさせていただきました。キーパーソンとなる建築家の方からのコメントで、とてもうれしくなりました。本質を理解してくださっている方がいらっしゃる、とても心強いと感じました。ありがとうございました。